



5・6月に市内で行われたイベントについてお知らせします

今月の表紙  
平家大祭



6月4日(土)・5日(日)の2日間にわたり、湯西川温泉で今年で32回目を迎える平家大祭が行われました。5日にはメインイベントの「平家絵巻行列」が行われました。

湯殿山神社で出陣式を行い、平家の里・赤間神社までの約1.2kmをきらびやかな衣装を身にまとった地域住民や小学生、また一般公募により集まった女性たちがお姫様に扮して練り歩きました。

お姫様役のニュージーランド出身のジュリー・ベネットさんは「とても素晴らしいお祭りでした。お祭りに参加し、日本の歴史と文化を知る貴重な体験ができました。今後ぜひ参加していきたいです」と笑顔で話してくれました。



5月21日(土)、森友瀧尾神社でのお杉御田植祭が行われました。この祭りは御神田に田植えをして五穀豊穡などの繁栄を祈願するものです。神様を招くための杉の御柱を中心に舞台が設置され、神楽舞などには、市無形文化財の「今市田植え歌」が披露され、色とりどりの田植え装束に身を包んだ早乙女や田男、子どもたちが稲を植えま



した。御神田に植えられる稲は「赤穂餅」といい、穂が出る前に青刈りされ、大しめ縄として奉納されます。森友瀧尾神社の、大しめ縄の重さは300kg、長さは4mになり、県内最大のしめ縄です。泥だらけになりながら田植えに参加した藤田幸来ちゃん「今年で3回目です。楽しかった！また来年もやりたいな」と元気に話してくれました。



5月21日(土)・22日(日)の2日間、足尾の庚申山と猿田彦神社で庚申山春まつりが開催されました。この祭りは庚申山登山の安全などを祈願するもので、21日はふもとの銀山平にある猿田彦神社で安全祈願の神事が、翌22日には庚申山中腹の庚申山荘内の社殿で神事がそれぞれ行われました。足尾は全国の庚申講信仰の総本山として知られており、取材に訪れた22日は、全国各地から集ま



た大勢の信者たちが熱心に祈禱を捧げていました。また、この日は猿田彦神社境内の特設ステージで、民謡や民舞、和太鼓奏者の吉太郎氏と地元「足尾和太鼓チーム」による「足尾和太鼓チーム」による演奏などが行われました。吉太郎氏と共演した足尾の子どもたちは、吉太郎氏の繊細かつ力強いバチさばきに感銘を受けていました。この他、境内では奉納餅つきも行われ、見物客に振る舞われました。

日光おお杉御田植祭



5月17日(火)・18日(水)の2日間、日光東照宮で春季例大祭が開催されました。17日は東照宮の表参道で神事流鏝馬が、18日は百物揃千人武者行列がそれぞれ執り行われ、参道は大勢の参加者や観光客でにぎわいました。流鏝馬の行われた17日は、朝からあいにくの雨。このため開始時刻がずれこみましたが、始まる頃



翌18日の千人武者行列は絶好の晴天に恵まれ、鎧武者をはじめ鉄砲持、槍持、掛面など53種類の装束をまとった行列と3基の神輿などが、二荒山神社の境内から御旅所までの約1kmの距離を練り歩きました。

庚申山春まつり



5月15日(日)、清瀧神社で湯立て神事が行われました。これは、神職が氏子を代表し、小笹を持って全身に熱湯を浴び、無病息災や家内安全を祈願するもので、弘仁(11820)年に弘法大師空海が同神社を建立以来、毎年行われている伝統的行事です。大勢が見守る中、神職が全身全霊をささげ、勢いよく小笹を振り上げて熱湯を浴びると、会場からはどよめきが起りました。



5月21日(土)JR今市駅前通りで赤ちゃんハイハイ選手権大会が行われ、午前・午後の部で50名が参加しました。その場で泣き出し、あちこちへ進んでしまったり、会場は笑顔に包まれました。午前の部で見事優勝した藤田勇利ちゃん(東和町)のお母さんは「家でも早く追いかけるのが大変です」と笑顔で話してくれました。

日光東照宮春季例大祭

えんねんのまい  
延年舞



5月17日(火)、世界遺産輪王寺三仏堂で、天下泰平などを祈願する舞「延年舞」が厳かに執り行われました。

延年舞は千年以上の伝統を持つ秘舞で、代々口伝で受け継がれています。毎年、日光東照宮の春の大祭に先駆けて開催されるこの舞踏は、現在では輪王寺の他、岩手県平泉町の毛越寺にのみ残る貴重なものです。

緋色の直垂と白色の袴に身を包んだ2名の僧侶が堂内に現れると、集まった約50名の参詣者たちは、真剣な眼差しで伝統的な演舞を見つめていました。

舞い手の一人、関口純一さんは「無事終わってほっとしています。今年は日光開山1,250年の節目の年です。合わせて、延年舞は私が預かっているお堂「常行堂」に祭られている摩多羅神の舞なので、身の引き締まるような思いでした」と心境を語ってくれました。



赤ちゃんハイハイ選手権大会